

10	① 競争入札参加資格 希望業種区分	② 直前2年度分決算		③ 直前1年度分決算		④ 直前2か年間の 年間平均実績高 (千円)
		年 月から 年 月まで (千円)	年 月から 年 月まで (千円)	年 月から 年 月まで (千円)	年 月から 年 月まで (千円)	
測 量 等 実 績 高	測 量					
	建築関係建設コンサルタント業務					
	土木関係建設コンサルタント業務					
	地 質 調 査 業 務					
	補償関係コンサルタント業務					
	そ の 他					
	合 計					

※②～④の金額はいずれも消費税を含まない額を記載して下さい。

11	区 分	直 前 決 算 時 (千円)
自 己 資 本 額	① (うち外国資本) 株 主 資 本	
	② 評価・換算差額等	
	③ 新株予約権	
	④ 計 (P)	

記載要領

- 1 「10 測量等実績高」の「④直前2か年間の年間平均実績高」欄の金額（千円未満を四捨五入）は、様式⑤における同項目（項番「08」「09」「10」「11」「12」）へ転記すること。
- 2 「11 自己資本額」は、平成28年8月31日までに迎えた直近の決算により記載すること。（千円未満切り捨て。）
 - 「① 株主資本」欄には、払込済資本金に新株式申込証拠金、資本剰余金、利益剰余金、自己株式申込証拠金を加え自己株式を減じた額を記載する。（有限会社である場合においては、出資払込金、出資申込証拠金の額）
 - 外資系企業の場合には、「① 株主資本」の合計欄の上段（ ）内に外国資本の額を内数で記載する。
 - 組合にあっては組合の基本財産と組合員の払込資本金に利益剰余金を加えた額の合計額を記載する。
 - 個人にあっては、「④ 計」欄に、純資産合計（期首資本金＋事業主利益＋事業主借勘定－事業主貸勘定）の額を記載する。
 - 個人（青色申告）の方は、確定申告控えにある貸借対照表から、「（事業主借＋元入金＋青色申告特別控除前の所得金額）－事業主貸」で出た金額を個人事業者における「株主資本」とする。その他、評価・換算差額等、新株予約権という概念が個人事業者の財務諸表にないため、そのまま右下（P）も同じ金額が入る。
 - 個人（白色申告）の方は、確定申告書の控えから確認できないため、自己資本額は「0」での申請となる。
 - 「② 評価・換算差額等」欄には、その他有価証券評価差額金、繰延ヘッジ損益、土地再評価差額金があった場合には、その合計の額を記載する。
 - 「③ 新株予約権」欄には、新株予約権があった場合にはその額を記載する。
- 3 「13 常勤職員の数」及び「14 有資格者数」については、平成28年8月31日時点での雇用状況をもとに記載すること。

営 業 所 一 覧 表

営 業 所 名 称	郵 便 番 号	所 在 地	電 話 ・ F A X 番 号		
			市 外 局 番	市 内 局 番	番 号
()	—				
()	—				
()	—				
()	—				
()	—				
()	—				
()	—				

記載要領

- 1 本表は、申請日現在で作成すること。
- 2 「営業所名称」欄には、常時契約を締結する本店又は支店等営業所の名称を記載するとともに、()内に連絡担当者を記載すること。
- 3 「所在地」欄には、営業所の所在地を上段から左詰めで記載すること。
- 4 「電話・FAX番号」欄には、上段に電話番号を、下段にFAX番号をそれぞれ左詰めで記載することとし、市外局番及び番号は、「— (ハイフン)」で区切ること。

様式③

測 量 等 実 績 調 書

(入札参加希望業種区分)

業種細 目番号	注 文 者	元請又は 下請の別	件 名	測量等対象の規模等	業務履行場所の ある都道府県名	請負代金の額 (千円)	着 工 年 月
							完成(予定)年月
							年 月
							年 月
							年 月
							年 月
							年 月
							年 月
							年 月
							年 月
							年 月
							年 月
							年 月
							年 月
							年 月
							年 月
							年 月

記載要領

- 1 本表は、入札参加を希望する業種の各別又はその他の営業の各別に作成すること。
- 2 本表は、直前2年間の主な完成業務及び直前2年間に着手した主な未完成業務について記載すること。
- 3 下請については、「注文者」の欄には元請業者名を記載し、「件名」の欄には下請件名を記載すること。
- 4 「測量等対象の規模等」の欄には、例えば測量の面積・精度等、設計の階数・構造・延べ面積等を記載すること。
- 5 「請負代金の額」は、消費税込みの金額を記載すること。

様式④

技術者経歴書

(種類)

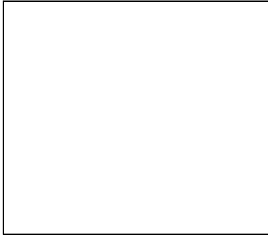
氏名	最終学歴		法令による免許等		実務経歴	実務経験 年月数
	学校の種類	専攻学科	名称	取得年月日		
				年 月 日		年 月
				年 月 日		年 月
				年 月 日		年 月
				年 月 日		年 月
				年 月 日		年 月
				年 月 日		年 月
				年 月 日		年 月
				年 月 日		年 月
				年 月 日		年 月
				年 月 日		年 月

記載要領

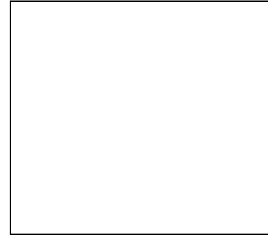
- 1 本表は、平成28年8月31日時点で雇用している技術者について、土木、建築若しくは設備又は職種の各別に作成すること。
また、「氏名」の記載は、営業所（本店又は支店若しくは常時契約を締結する事務所）ごとにまとめて行い、その直前に、（ ）書きで当該営業所名を記載すること。
- 2 「学校の種類」の欄には、大学、高等専門学校等の別を記載すること。
- 3 「法令による免許等」の欄には、業務に関し法律又は命令による免許又は技術若しくは技能の認定を受けたものを記載すること。
(例：〇〇建築士，〇〇土木施工管理技士)
- 4 「実務経歴」の欄には、最近従事した測量、建設コンサルタント等業務の内容及びその業務における地位を記載すること。

使 用 印 鑑 届

使用印



実印



上記の印鑑は、入札・見積りに参加し、契約の締結並びに代金の請求及び受領のために使用したいのでお届けします。

平成 年 月 日

住 所
商号又は名称
代表者職氏名